

「清心」

文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

年末の交通安全県民運動

12月12日（水）から12月21日（金）までの10日間、年末の交通安全県民運動が実施されます。運動の重点は、①飲酒運転の根絶、②子どもと高齢者の交通事故防止、③後部座席を含めた全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底の3点です。小学生の交通事故で多いのは「飛び出し」です。走るにより、本人も周りが見えにくくなり、車の運転手もブレーキが間に合わない状態となります。学校では、道路では走らないよう指導していますが、ご家庭や地域でもご指導くださいますようお願いいたします。併せて、列車事故防止のため、線路付近で遊んだり、線路へ石などを置いたりしないようご指導をお願いいたします。

どんと焼き

保護者の皆様へは、PTAからプリントでお知らせしていますが、子どもたちの無病息災を願って、1月10日（木）の15時15分から16時15分まで、運動場において「どんと焼き」と「ぜんざい会」を実施いたします。雨天時も校舎内で「ぜんざい会」をいたします。保護者の皆様並びに地域の皆様の多数のご来校をお待ちしています。

「どんと焼き」などと呼ばれる風習は日本全国で見られます。刈り取り跡の残る田などに長い竹を3・4本組んで立て、そこにその年に飾った門松や書き初めで書いた物を持ち寄って焼き、その火で焼いた餅を食べるなど、それぞれの地域で名称も風習も違って実施されてきました。諸説あるようですが、平安時代の宮中行事が起源という説もあります。祇園小でも、保護者や地域の皆様のご支援とご協力により開校以来続いていると聞いています。伝統あるこの行事を続けていきたいと思っています。

祇園歴史の旅（その28）「川の流域は人の暮らしの場」

中部地区町内協議会設立25周年記念誌（平成20年発行）、佐世保史談会会員の筒井隆義さんの記念エッセーより抜粋。『元町』の町名は、佐世保の町がここから始まったことを意味しています。川と海が接する河口で、古代から人々が暮らしの拠点にしてきました。昔は佐世保浦と呼ばれ、ここから佐世保川の右岸沿いに中通り免があり、俵町付近まで住家が連なっていました。

この佐世保の姿を一回り小さくしたものの、それが『小佐世保免』で、河口は浦で三つの浦（三浦）があり、一部は塩浜でした。上流の現小佐世保町にかけては小さな谷が入り組み、複雑な地形をみせています。京の坪と宮崎の地名が隣り合っていますが、この名称は、かつて仏教の施設と神社があったことを物語っています。

歴史を考察する上で、重要な事項に『信仰』があります。『衣・食・住』を生活の基本だと言いますが、心の生きものである人間は、つい近年まで心の支えとして日常に神と仏を念じていました。山や川の自然地形と共に、神と仏にちなむ古地名の多さが、そのことを証明しています。

『京の坪』の地名は、前にも述べたとおり、末法の世を迎えたとする仏教の経塚にちなむ地名。では宮崎は。早岐・小森川の東にも宮崎の地名がありますが、ここは住吉宮（住吉神社）の地先にあるので宮崎です。では、現在の佐世保郵便局付近を指す宮崎の本宮は何でしょうか。それは『高天宮』です。」

次回は、「大村家と幸天六社大明神」と題して神社をご紹介します・・・。